本書の活用について

1　本書の構成

(1)　体を動かして学ぼう人権

楽しい中に人権の視点をいれ、体を動かしながら学ぶ人権学習を目的として構成しました。ゲームの中で「仲間はずれ」にしている自分に気づいたり、気持ちよいコミュニケーションの仕方を学んだり、協力・協調の難しさや達成した喜びを共有し合ったりする活動を位置づけました。また、ゲームの楽しさだけにとどまらないよう、「まとめ」の仕方を工夫してみました。

(2)　なかまと人権について考えよう

教える・教えられるという一方通行の学習から、参加者が他の参加者の意見や発想から「気づき」・「学び合い」・「まとめ」をするという双方向の学習への転換を目的とし、参加者が主体的に参加し体験することで、本音が語られ、自ら納得し、実感し、そして行動につながる学習手法であるワークショップ（体験的参加型学習）を取り入れ、アクティビティを構成しています。

アクティビティの中でファシリテーターが発する言葉も加えながら、気軽に活用できる資料集をめざしました。また、いくつかの「学び合い・支え合い」をアクティビティとして掲載しました。

2　「学び（人権問題への気づき）」と「支え（人権問題に対する行動の仕方）」の活用について

経験を通して人権問題に気づく学習資料を、「学び」として設定しました。これらのアクティビティは、学習される皆さんにそれぞれの人権問題に気づいてもらいたい、そして、正しく理解してもらいたいという意図で設定されたものです。この「気づき」の学習は、12年度（2000年度）に発刊した資料集「『わたし』と『あなた』そして『みんな』の人権」でも力を入れて編集した部分です。

今年度は「気づき」から「行動」への高まりを願い「行動の仕方を学び合うアクティビティ」を「支え」として加えました。いくつかの資料の中には、行動の仕方を学び合う学習を入れるように工夫してあります。

人権教育においては、気づくだけの活動ではなく、人権課題をどのように行動に結びつけ、解決していくかという課題解決力を育成することが大切になってきます。

行動に結びつく人権教育を、みんなで学んでいきましょう。